

# 追悼 松下駿三さん

2019年1月13日逝去 享年 76歳



偲ぶ会  
2019年3月9日  
於 メセナひらかた



東京都練馬区立豊玉小学校 6年2組(1953年)

駿三さんと扶美代さんは同級生

# 松下さんが晩年に書かれた履歴書

履歴書		年	月	日現在	
氏名 <u>松下 駿三</u>					
昭和17年9月21日生 (満69歳)				男	
よりがな		〒573-0084		電話	
現在所		大阪府枚方市理紅町番1~814号室		072-852-1099	
よりがな		(現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)		電話	
通 勤 先				090-2110-6547	
年 月 学歴・職歴(各別にまとめて書く)					
学 歴					
昭和42	3	国学院大学文学部文学科		卒業	
職 歴					
昭和42	4	奈良県公立学校教員として採用される			--
昭和47	3	<del>奈良県公立学校教員を体原退職</del>			
昭和47	4	大阪府公立学校教員として採用される			
平成5	3	定年より本職を免じられる			
平成16	6	同年9月枚方市総合波浪管理マシンの清掃業務に従事			
平成17	4	同年6月枚方市総合波浪管理マシンの営業職に従事			
平成18	10	平成20年2月枚方市総合波浪管理マシンの営業業務に従事			
平成20	6	平成21年3月枚方市総合波浪管理マシンの営業業務に従事			
平成22	5	平成23年11月枚方市総合波浪管理マシンの営業業務に従事			
以上					

記入上の注意 1. 鉛筆以外の黒又は青の筆記具で記入。 2. 数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。 3. ※印のところは、該当するものを○で囲む。

◆ 『松下駿三さんの思い出』

知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

吉田侑加&小由紀

突然の悲報を受けて、あまりのことに息をのんでしまいました。

娘の高校受験の時に色々お世話になりました。大阪府立高校後期願書出願の時、最終倍率を確認した結果、S校かN高校選択に家族は悩みました。その時松下様からお電話頂き温かい励ましや助言をして下さいました。

結果N校に無事に合格することができました。

本当に深く感謝致しております。その後も何かと優しく思いやりのある言葉で私達親子を励まして下さり、亡くなる三日前に年賀状を頂き、「侑加さん生活を楽しんでいますか？」と気遣って下さいました。

もう松下様にお目にかかることができなくなってしまったことは、誠に心残りに存じます。今は心よりご冥福をお祈り致します。

◆ 鈴木 留美子

高校問題を考える大阪連絡会 代表

「障害」のある子どもの教育を考える北摂連絡会代表

10日に高校問題を考える会でお会いして、翌日には2. 11集会での私のアピールについて以下のメールをいただき激励して下さったのに、あまりにも突然の訃報に驚いています。

松下です。集会での発言ご苦労様です。

鈴木さんが骨折されたりして一定期間確かに空きましたが、その間北口昌弘さんが障害者団体代表としてアピールしてくださり、集会としては途切れることなくこれまで常連(あまりいい言葉ではありませんが)としてアピールの機会を得てきております。

増田さんや井前さん(枚方高校の藤岡さんも)が18年度で定年となり、現役教員(再雇用は別として)としてはおそらく最後の年となります。また、私も2年間ぐらい大阪を離れていたりして戦力外の立場ですが、鈴木さんはじめ132団体が名乗りを挙げた時期から10年を経過していますが、事態は、橋下府市政を引き継いだ維新路線の松井・吉村というある意味橋

下のスタンドプレーや派手さに欠けるが権力を手中し、事務的に進める怖さはむしろ深まっているように思います。

日本中どこにもない「君が代条例」なる法の下で3回不起立でクビ！に実体的に不起立で応える増田さんの闘いは、ただ単に「日の君問題」を超えた「教育は誰のためのものか」を問う闘いであり、障害者・在日など「マイノリティーに寄り添う」教育を実践し、上命下服という管理がまかり通る現状に、掉さし、抗う良心的教員を「現場から放逐する」（橋下）が一層定着・蔓延しているという点において、やがては大阪における部落解放教育の黄昏に似た現象が障害者教育にも起りかねません。

その意味において現場教員が仲間と協働し、実践を交換し、「生徒に寄り添った丁寧な取り組み」ができる大阪の教育を取り戻し、創造する母体がこの集会に参加する一人ひとりの課題でもありますので、鈴木さんが発言されることの意義は極めて大きいのです。どうかよろしく願います。

#### ◆ 白井孝恵

知的障害者を普通高校へ北河内連絡会代表さやかさんの母

松下さんの訃報に驚きとショックで申し上げる言葉もありません。

#### ◆ 松下さんがつないでくださった縁

合田享史（高校問題を考える会などでともに活動）

私がフェイスブックに書いた、高齢者が豊かな人生を送るには「きょういく」（今日、行くところがあること）と「きょうよう」（今日、用があること）が大切という文章に、次のようなコメントをくださったのが昨年9月28日のことでした。

《なるほど、と合点がいきました。松下が北河内連絡会やら高校問題で皆さんのお仲間に加えていただいていることが。と勝手に思っていて良いんですね。「きょういく」と「きょうよう」良いですね。迷惑と感じ始めたらいけないんですよね。よっしゃあ！》

これから、ますます意欲的に活動されるのだなぁと心強く思っていました

のに、その3カ月あまり後に旅立ってしまわれるとは……。松下さんの「きょういく」と「きょうよう」は、この世にまだまだ残ってますよ！

相手が誰であろうと、分け隔てなく真摯に接する方でした。約10年前、「ともに学ぶ」教育の取材を始めて何もわかっていない私のことも正面から受け止めてくださり、枚方の教育に関わる人たちや、「日の丸・君が代」強制と闘っている人たちとの縁をつないでくださいました。私がいま、たくさんの人たちとのつながりの中でライター活動ができてるのは、松下さんのおかげです。

他界される直前、高校問題を考える会でお会いしたときも、私に関わっている「精神障害をもつ方の配偶者・パートナーの集い」に、ゆかりの方をつなごうとさせていただいていました。そのことのお話がちゃんとできなかったのが心残りですが、今後、そのゆかりの方とつながっていったらと思っています。

#### ◆ 山口 正和

##### 「障害」のある子どもの教育を考える北摂連絡会

松下さんには連絡会の他、日の丸君が代問題や演劇のことなど、多岐にわたって昵懇にさせていただいておりました。

それぞれの課題では真剣な怒りをあらわにしておられますが、日々のお付き合いでは好々爺の風情で、私も松下さんの様に生きていきたいと常々から憧れておりました。

元気しておられて急に倒れられた様子、いかにも松下さんらしいです。

考える会や連絡会のみならず所属されていた各方面でも、大きな柱を失って途方に暮れることかと存じますが、残された私たちが頑張ることが松下さんへの追善・回向に他ならないと思います。

#### ◆ 片岡 次雄

##### 高校問題を考える大阪連絡会

松下さんは日の丸君が代問題、教科書問題にも関与しています。

片岡にとって日の丸君が代問題のニュースは、松下さんが頼りでした。

山田光一さんから亡くなったことの電話をいただいたこともあり、「学力テストの教員評価・ボーナス反映に反対！ 12.22 集会実行委員会 ML」で、お通夜お葬式の日程等を流させていただきました。

北河内の方々に流そうと思ったのですが、本人の了解を待っていたら今日明日に間に合わないかも知れませんので、MLでの返信を関山さんにお知らせします。

## ◆ 相可 文代

ご連絡ありがとうございました。突然の訃報にびっくりしています。

松下さんとは個人的なお付き合いはなかったのですが、教科書の集会に来てくださり、枚方で学習会を開いてくださるなど、いろいろ力を貸してくださいました。心から感謝しています。

謹んでご冥福をお祈りします。

## ◆ 山内 華奈子

### 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

「事務局その8の、松下です。」

毎回、北河内連絡会での自己紹介は同じものだったと記憶しています。

その番号は1桁でも、絶対に1とかは無く、時には、2桁の申告もありました。

そんな時は、ぷつと吹き出しながら、内心は「そんなに、人数おらんやろ…。」と。

そんな自己紹介の挨拶にも、松下さんのお人柄が滲み出ていました。

決して目立つ事は無いけれど、静かに見守っているだけだというのでも無く、ユーモアを忘れず、すべき事を黙々と地道にやり続けている。私には、そんな印象の方でした。

時には、何気に語られた松下さんのお話の、その意外性に、心底驚いたりもしました。

松下さんは、外観は老いていましたが、中身は、青年のような気概を持ち続けていたんですね。

お世話になりっぱなしで、何一つお返りする事は出来無かったかの悔やまれます。

私なりに、出来る事を少しずつでもやり続けていく中で、松下さんに近づいて行けるように頑張っていきますね。

最後まで、相談に乗っていただいた案件は、すっかり解決しました。寛は、無事に高校を卒業し、社会人にもなれそうです。

松下さん、本当に、ありがとうございました。

#### ◆ 鶴島 緋沙子

##### 枚方自閉症児者親の会

大きな丸い背中が振り向くと、細い目に穏やかな笑み、口元から出るお言葉はいつも弱者の味方。私たちの背中を押して下さった松下先生有難うございました。

#### ◆ 宮田 つぐよ・香奈

##### 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

松下さんと初めてお会いしたのは 大町さんと一緒に寝屋川での集会に参加した頃です。

当時 娘は小学生でした。松下さんには 色々な所に同行して頂き 事務的な事でもご尽力して頂きました。本当にありがとうございました。

連絡会で沢山の情報を得て 皆さんに協力して頂いて 娘は枚方なぎさ高校に入学しました。

卒業後 枚方療育園に就職して 9年…27歳です。苦手なお掃除の仕事ですが 頑張っています。

松下さんは いつも穏やかで 優しい笑顔の印象しかありません。そして お声が忘れられません。

ご冥福をお祈りします。

## ◆ 松森 俊尚

### 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

会議や集会で自己紹介をするときに、「知的障害者を普通高校へ北河内連絡会事務局『その5』(3であったり、4であったり実に適当なのですが)の松下です。」と発言されて、場を和ます軽妙洒脱な言葉遣いを思い出します。

決して「その1」とは言われなし、「北河内連絡会」創設から16年、いつも裏方に徹して東奔西走会の運営を支えてくださいました。

定例会や学習会の度に会員に案内を送るのですが、私が「案内はがき」の作成を担当し、松下さんがはがき送付先以外の家庭にメールを送信する役割になっていました。どうも話を聞いていると、一軒一軒宛先を選び、案内はがきのデータを添付して送っているようなので、ある時、「グループ送信したら簡単ですよ」と、電話を通して設定をお手伝いしようとしたことがありました。

「いやあ、年寄りには暇だから一人一人送りますから」と、やんわりと断られました。設定の操作が面倒なんだろうと、松下流を貫く頑固さを想像したものでした。

ところが、会員の方たちから、「松下さんがいつも気にかけてくださるので、今度久しぶりに参加します」とか、「高校で苦しんでいるので、松下さんのメールを見たときに相談させていただこうと連絡を取りました」などの言葉が寄せられてくることに気づきました。

80人以上のメールを一人一人はがきに手書きするように近況を書き添えながら、送られていたことに気づいて頭が下がりました。

「日の丸君が代、不起立裁判」や、「教科書問題」などでも活動され、常に弱者、マイノリティー、被差別、反権力の立場に依拠して活動する闘士でもありました。相手がどんなに大きな力を持ってしようと、その横暴に対しては微動だにしない意思で立ち向かい、力勝負を挑んだり、時には飄々として体をかわしたり、変幻自在の闘い方に何度も感心させられたものでした。

おそらく、その幅広い運動の経歴が、障害者問題に向かわせたのでしようし、障害当事者に対して、常に裏方に回るのは必然であったのだと思います。

夜の9時ごろ、机に座って普段と変わりなくお連れ合いと話しながら、急にくずおれるように倒れて、救急車で搬送される途中で息絶えられたと聞きました。

その3日前に会議でお会いして、帰りに車に乗せていただき、同乗した友



人といっしょに話が弾んで、途中京橋の喫茶店で話し続けたばかりでした。

確か76歳、残された者には悲しみと困惑が尽きませんが、普段と何一つ変わらぬ暮らしの中でフツといのちが消えた極楽往生ではないか、私はそう思っています。

## ◆ 事務局員と中川和美さんとのやり取りから

### 〈事務局員〉

北河内連絡会の1月27日の定例会の案内を、メールで70便位、お一人お一人にパソコンで送ってくださっていた松下さん。

その案内を受け取った寝屋川の中川さんが、北河内連絡会に参加して、私学を受けた息子が合格。息子は発達障害があり、そのことは、学校には話している、との事。

1年生の1学期には、剣道クラブも、クラスも楽しく、学校に行っていたのに、2学期、体育の授業で、息子さんに執拗につらく当たり、息子さんが体育の教師の胸倉をつかんだ。それを見ていた別の体育の教師の動きから、「退学勧奨」になった、と松下さんに相談がありました。

年末の28日、松下さん、松森さん、関山でお話をお聴きし、私学の対応に、怒りを覚えつつ、いろいろ対策を相談しました。

その後も、松下さんが、丁寧に、メールで中川さんとやり取りされていました。

(松下さんからは、1月13日の朝9時頃にも、中川さんのことについて、関山はメールを頂いています。亡くなったとのお知らせは、その13日の夜、9時半過ぎでした。)

今となれば、松下さんの最後に心を注がれたお働きになりました・・・。

### 〈中川 和美〉

ご連絡ありがとうございます。なんとか、無事に？合格する事ができました。

沙羅が受ける1ヶ月前に星翔から9名の退学者が向陽台を受験し、全滅。この件で先方も星翔からの生徒は…という見方も無きにしもあらずでなんとかクリアできてとりあえずは、ホッとしました。

沙羅も早く学校に行きたいとムズムズしています。大好きな剣道を続けるには一番良い環境だったので、良かったです。

向陽台は学年はないようですが、1月生という事で、このまま無事に行く  
くと同学年と一緒に卒業できるようです。

松下さんの件は…本当にびっくりして言葉になりません。

合格のご報告もさせていただいたのですが、いつもすぐにお返事下さるの  
が、お返事なかったのも、お風邪でも引かれているのかなと思っておりまし  
た。未だに信じられません。

#### ◆ 松下駿三さんの思い出

石橋進一 石橋真由美

寝屋川市の義務教育における医療的ケアを考える会

私たちが松下駿三さんと初めてお目にかかったのは、今から10年ほど前、  
2009年のことだったと記憶しています。当初から松下さんは、穏やかで暖かい  
物腰で接してくださいました。

翌年2010年、医療的ケアを必要とする私たちの娘が通う小学校でたいへん  
困ることが生じました。配置してもらっていた看護師さんの日数を減らすと  
寝屋川市教育委員会が言い出したのです。まだ「医療的ケア」ということば  
自体が一般的ではなく、どこへいっても、一から説明をしなければならない  
状況でした。手元のメモでは、2010年1月23日『『知的障害者を普通高校へ』  
北河内連絡会』の例会におじゃまし、連絡会の趣旨とは少し違うはずなのに、  
メンバーの方々からさまざまなアドバイスをいただいています。

紆余曲折ののち、北河内連絡会の全面的なバックアップを得て、4月に医  
療的ケアの仲間たちとともに「寝屋川市の義務教育における医療的ケアを考  
える会」という名称の団体を結成しました。連絡会でいくどもご教示をいた  
だき、6月に市教委と団体交渉に臨みました。この時は、松下さんをはじめ  
とする北河内連絡会のみなさん、そして連絡会とつながりのある方々が30  
名を超える方が参加してくださいました。

後で聞いたところでは、北河内連絡会に参加はしていないけれども、松下  
さんから知らせを受けたので馳せ参じたという方もいらっしゃいました。結  
果は大成功で、看護師さんの日数減の撤回に成功しました。なお、後日、松  
下さんが（医療的ケアとは直接関係ない方との世間話で）「先日、久しぶりに  
団体交渉を行いましてね」と話されているのを横で聞いたことがあります。  
淡々としたお口ぶりでしたが、松下さんにとっても印象に残る出来事のように

でした。

もちろん、1回の交渉でなにかも解決するものではありません。その後、北河内の例会以外の場でも、たとえば市教委と協議をする際など、けっして労を惜しまず、さまざまなところに何回も足を運んでくださいました。

松下さんとの思い出をいくつか。

【石橋進一】今から4年前2015年9月13日大阪の御堂筋で戦争法案に反対する大きなデモ（2万人規模）が開かれ、私が参加したところ、示し合わせたわけではないのですが、北河内のメンバーの方々に幾人もお会いするということがありました。はたして松下さんもおられました。たまたまデモのゴール地である難波付近をご一緒することができました。その際、「いやあ、デモはいいんだけど、ヒップホップっていの？ あれ、体が動かしにくくてさあ」と苦笑いしておられました。

【石橋真由美】2018年6月の北河内連絡会で娘の高校入学に対して松下さんから「よく頑張ったね」と声をかけてもらいとても嬉しい気持ちになりました。今年1月7日に松下さんから年賀状をいただき「高校生活を大いに楽しんでくださいネ」と娘への励ましが書かれていました。

私たちは、松下さんのお人柄に何度救われたことでしょう。常に裏方を受け持ち、けれどもここぞという場面では、背筋を伸ばして立ち上がり、よく通る声で発言をされました。一方で、子供たち対しては、いつも前向きで優しい言葉をかけてくださいました。私たちはその言葉を忘れずにしていきたいと思います。

松下さん、本当にありがとうございました。

#### ◆松下駿三さんを偲んで

新居優太郎 新居大作 新居真理

大阪府枚方市に在住の新居です。新居家は、人工呼吸器を付けて車椅子に乗る優太郎（19歳）と、その両親（大作、真理）の3人家族です。

松下さんとの出会いは、小学校を支援学校に通っていた優太郎が、地域の中学校に入学してすぐだったと思います。枚方市の中学校に人工呼吸器の生徒が通った例がなく、入学するや否や学校と揉めていた時、「知的障害者を普通高校へ北河内連絡会」の定例会を知り合いから紹介してもらい、家族3人で参加したことが始まりでした。

定例会の会場に向かうと、満車の駐車場で車を停めることができず困っているところ、松下さんが離れた駐車場まで案内してくれ、ご自分の車で乗せて行ってくれたり、会場内の後ろの端で、受付をしてくださっていたりしていて、「ありがたいなあ、優しそうな人だなあ」という第一印象でした。話をすれば穏やかで人当たりがとても良くユーモアもあり、一歩引いたところから独特の観点で落ち着いてお話をされるところが面白いと思いました。

そこで優太郎の中学校でのことなどを話し、あまりに当時の中学校での対応の悪さに、松下さんをはじめ多くの方が一緒に怒ってくださり、我々家族とともに学校や教育委員会と話し合いをしてくださることが増えてきました。何度も話し合いを重ねる中で気が付けば「優太郎さんの親の付き添いをなくす会」が発足し、松下さんが会の代表を務めて下さることになりました。普段穏やかな松下さんも、市教委との話し合いで誠意ない答えを市教委が話してきたときなどは、怒りの気持ちを全面に出して、珍しく声を荒げて熱く抗議してくれたことも印象に残っています。

新居家にとって一番の思い出は、学校、教育委員会と修学旅行のリフトバスについて話し合う中、話し合いが平行線となり、教育委員会が会との話し合いを拒否してきた時がありました。「これ以上当事者家族以外の人とは話し合いをしない」と言われ、学校で母一人対学校、教育委員会という話し合いが行われることになり、夫も仕事で参加できず、私は一人話し合いに不安を感じていました。そんな時松下さんは校長が「外部の人には会わない」と宣言している中、一人で果敢にも学校に車で乗り付け、私が出待機している部屋まで来てくださいました。そして一緒に身内のように話し合いに参加してくださいろうとしましたが、さすがに校長も家族ではない松下さんに気が付き、話し合いの方には行かさないようにやってきました。それで追い出されるのかと思いきや、校長は椅子を二脚持参して松下さんの前に座り、一緒に廊下で話を始めました。私は気が気でありませんでしたが話し合いに臨まなければならない、後ろ髪ひかれながらも熱い応援の気持ちを受け取り、話し合いに参加したのを覚えています。中学校三年間で当時の校長と直接会って話をしたのは何を隠そう松下さん唯一です。

そういったおかげで優太郎の親の付き添いも減り、学校での対応も劇的に良くなって卒業しました。そして卒業後も、学校関係では枚方市と直接関係なくなっても「親の付き添いをなくす会」として市教委と話し合いは定期的に行っています。これからも後進のためにますます頑張ってもらって、と頼りにさせていただいていた矢先に、松下さんとのお別れが突然来るなんて、思いもしませんでした。今更ながら、おられなくなってますますその存在感を感じます。私たちはその足元にも及びませんが、残されたみんなでカバーし合いながら、少しずつでも一步一步進んでいかないといけないと思っています。

本当にいろいろしてもらってばかりで、感謝しかありません。ろくに恩返しもできていませんが、これからも、松下さんの遺志を引き継いで、力を注いでいきたいです。どうか見守っていてください。ありがとう、松下さん！！

#### ◆ 松下駿三さんの存在感

関山 城子

( 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会 ・ 親の付添いをなくす会 )

松下さんの突然の訃報に接して1か月以上。未だにどこかでエエッ？松下さんはおられないんだ～という気持ちを持ち続けている自分がある。それほど、直前まで、メールを頂いたり、会議に出かける時は、メールをくださって車に乗せて頂いたり、また車中での会話がどんなに楽しかったか～。国や大阪府の政治やら教育行政、映画、演劇、情報たっぷり、ご自身の身边まで。それが極めて軽妙洒落で、私はたいてい車の中で、笑いこけてお聞きしていた。

お亡くなりになって、一挙に迫ってきた。そういう空気のような大事な、しかし亡くなって初めて気づく松下さんのゆったりとしたお人柄。北河内連絡会で松下さんが担ってこられた役割の大きさ・凄さ。いま、私は、バタバタと活動をさせて頂いている。

人工呼吸器を使っている新居優太郎さんが枚方市の中学校に入学して以来、中学校・市教委の差別的な様々な対応を巡って、「親の付添いをなくす会」を作り、市教委と話し合いを重ね、今年度で7年になる。その代表として、松下さんは、本当に真摯に向き合い、闘ってこられた。

最近、松下さんが、「市教委が話し合いを拒否と言ってきた2013年に、

僕は一人で枚方市長に、公文書で、こんなけしからんことを言って市民と話し合いを拒否するとは、なにごとぞ！と、取り下げを要求してきた」と。ええっ？ずっと傍に居て、一緒にたたかっていたつもりだが、私にはその記憶がない。松下さんが要になって推進してこられたことを、改めて、最近実感したところだった…。

◆ 「嘘だ！ 松下駿三さんの訃報の感想」

手塚隆寛（枚方市議会議員）

2日前に車に乗せていただいて市内を回ったばかり。駿三さんには「平和がいちばん」の配達をはじめお世話になりっぱなしでした。

急なお願いでもいつも笑顔で引き受けていただき、幾度となく助けていただきました。中学校の卒業式で校門前でチラシを配布する駿三さんたちに励まされ不起立を続けることも出来ています。「肩を張らずに自然体でしなやかに」との駿三さんの声が聞こえてくるようです。感謝の思いが届けばと思います。駿三さんありがとうございました。

◆ 松下駿三さん ありがとうございました

手塚美子

「びっくりしないよね。…涙なんか流してる間なんかないのよ・・・」と事の次第を知り、とるものもとりにあえずご自宅にお伺いした。お顔もまるで生きておられるように安らかな表情だった。扶美代さんの「夢見てるみたい」との言葉通り正直「昨日あんなにお元気だったのに！」と何度も心の中で繰り返した。なんせ前の日半日夫と私を乗せて市民の会が発行している「平和がいちばん」の配布協力者のお宅を回って下さったのだ。

「共に学ぶ」の取り組み、「日の君」の話し合い、学校門前の「良心の自由」のピラマキ、美術館問題でも公園に何度か来てくださった。温厚な方だが対権力には毅然とものをいう姿勢を学ばせていただきました。あまりにも早すぎて悔しいけど生涯現役大往生ですね！

### ◆ 「ありがとうございました」

大田幸世（「平和で豊かな枚方を市民みんなでつくる会」）

白い手袋をし、車の窓から手を振る松下さんの姿が、印象に残る最初の出会いでした。その横には、立候補者として緊張していた12年前の私が座っていました。

後ろには、街頭宣伝の場所を伝える井上さん。松下さんは、おだやかに、その場をやさしい楽しい雰囲気に変えてくださいました。「大田さんっておもしろい」と言われたことが忘れられません。何が？と聞いていたらよかった。

その後、松下さんが「活動にはお金がかかるから」と、民間の弁当配達をされ、懸命に活動されていたことが思いだされます。急な旅立ちですね。ありがとうございました。

### ◆ 「やさしい『船長さん』の思い出」

井上 由美（「平和な枚方をつくる市民の会」）

2007年枚方市長選の時、市民運動の会から立候補した候補者の選挙カーの運転をしてくださいました。皆はじめてのことでコースとりやマイク宣伝、手振りなど緊張の連続の中、運転手＝船長さんはゆったりした優しい口調で乗組員をなごませ、支えてくださいました。あの優しい笑顔をずっと忘れることはありませんでした。

その優しい松下さんが、教育委員会との交渉では憤りを込めて熱く、鋭く追及され、「なんて熱い人なんだ」と感銘を受けたことも思い出です。素敵な思い出、「市民の会」への応援有難うございました。

### ◆ 「松下さんはやっぱり松下さん」

南井廣三

1978年、守口高校生活指導部での出会いが最初。生徒との係わりはいわゆる硬軟両様、不思議。根底的なやさしさが理解できるようになるには10年ばかり必要。

在職中もそして退職後も弱い立場の人への連帯、それが基本にあった日々

の生活だったと思う。

しかし、何より松下さんはかっこよかった。どんな状況・場面においても人を安心させよう、楽しませようとする「すげべえ」心が最高。やっぱり、役者なんですよ。不良中年、不良老人こそ松下さんの真骨頂。「南井くん、ぼく、死んじゃったよう」そんな声が聞こえそう。

しなやかで、したたかで、松下さんはとにかくかっこいい。

#### ◆ 「アンダースタンドな対話の名人・駿三さん」

黒田伊彦（「日の丸・君が代」強制反対・大阪ネット）

「エッケー」と絶句せざるを得ませんでした。急逝されたとの電話連絡を受けた時です。

松下駿三さんは私たちとともに「教科書問題を考える枚方市民の会」や辻谷さんの君が代不起立処分を撤回させる会「T ネット」の事務局を担い、映画「愛と法」での法律事務所で協議する姿が大写しで出されています。

「松下でえーす」と抑揚のある電話の声が今でも耳から離れません。枚方市教育委員会との交渉の時も心静かに「それはこういうことですね。そうしたら…」と曖昧な回答に形を与えて、こちらの土俵に引き入れる対話の名人でした。奈良の十津川高校の演劇指導の中で培われたものでしょう。

英語で「わかる」は **Understand** と書きます。社会の底に押し込められ、虐げられた人々の立場に立って、国や教育等の本質がわかるということです。駿三さんは正に **Understand** な人として、今も私の心に生きておられます。

#### ◆ 「松下さん、ありがとうございました！」

野村 尚(友人)

2013年3月の卒業式での「君が代」不起立をきっかけにして、府教委によって再任用合格を取り消され、定年と同時に失業に追い込まれていた私を、松下さんはずっと支え、明るく前向きになれるように励まし続けてくれました。

余り自分の意見を振りかぶって主張するというより、控えめに相手が受け入れやすいようなアドバイスというにふさわしい意見の出し方をするというのが、私の印象です。組合の退職者組織に支援を働きかけることを提案・紹



介してくださり、総会でアピールさせてもらうたびに、総会に付き添って出席していただきました。それも事前打ち合わせなしで、私が総会に行く前に、総会会場に来られていて、総会後は送っていただくというようなことでした。また支援組織の発足や通信の発行作業でも、いつも手伝っていただきました。十分に感謝の気持ちを伝えられず、ごめんなさい。そして、ありがとうございました。

#### ◆ 「松下さんのこと」

梅原 聡（「日の丸・君が代」強制反対の運動でお世話になりました）

松下さんと知り合ったのは、私が「君が代」不起立で処分され、大阪ネット・ZAZA の活動に加わるようになってからのことです。支える会を立ち上げてもらった頃からは、会員にもなって支援していただけてきました。気さくに話しかけて下さるので、初めは名前も存じ上げないままに、現役の頃のお話を聞かせていただいたりしていました。あちこちで顔を合わせるごとに、必ず、明るい笑顔で声をかけて励まして下さったことが思い出されます。自分のことより、ご家族や周りの人たちのことを優先して考えてこられた松下さんが、こんなに早く逝かれてしまうとは…。本当に残念でなりません。松下さん、どうか安らかにやすみください。

#### ◆ 「松下駿三さんへ」

井前弘幸

松下さんとは、30年以上前のお大阪高教組結成の頃からのおつきあいとなりました。

30年の間には、たくさんの方がいました。今にして思えば、本当にあつという間だったような気がしますが、その時々怒りや悲しみや悔しさ、うれしい、楽しいの思いをいくつも共有してきました。

松下さんととくに濃いおつきあいとなったのは、準備から最高裁判決まで5年半以上にわたった「新勤評反対訴訟」でした。教育基本法改悪の前、教職員への人事評価の導入が教育基本法の根本を覆す暴挙であることを訴えて、大挙105名の現職教員が原告として立ち上がった裁判闘争です。事務局会議、原告団会議、弁護団会議、2万部を超える大量のニュースの発送作業など、

いつでも松下さんがいてくださいました。そして、「これどうしよう」というときには、いつも松下さんが、「私がやる」と言ってくれました。

いつも自分のことは後回しだったと思います。最後の最後まで、松下さんは自分のことは後回しだったのではないですか。少しはサボってる松下さんも見たかった。

松下さん、ありがとうございました。

#### ◆ 「松下さんの思いを受けついで、不条理、不合理と闘う」

元・高槻市立小学校教員 山田肇

あまりにもの急逝に残念無念の思いを禁じ得ません。私が2012年3月の卒業式の「君が代」不起立で戒告処分と再任用合格取消を受けて以来、松下さんは、人事委員会や裁判での傍聴に、また、高槻市での「山田さんを支える会」にも足繁くご参加いただきました。昨年12月15日の創作劇“朝まで生テレビ・海賊版”『どんな命令でも従うべきか』も見に来て下さり、「演技も脚本もよかった」とほめていただきました。

松下さんから、今年、いただいた年賀状には「嫌らしく生きたろ！」と手書きしてありました。安倍政権や府教委に対して「嫌らしく」生きて闘っていく思いを記されていたのに、さぞ、無念なことでしょう。松下さんの思いを受けついで、「日の丸」「君が代」と、また、不条理、不合理なことと闘いをつづけます。駿三さんありがとうございました。

#### ◆ 「温厚、時に厳しい運動家」

間苧谷学（高教組組合員・市民運動で共闘）

松下先輩といつ頃から活動を共にするようになったか、記憶はもう定かではありません。しかしどんな場面でも笑顔を絶やさず、かといってここぞという時には厳しい叱責の言葉を、私たちにも、対峙する相手にもかけられたことを覚えています。私たちが何か困った時、これをどうしようかな、誰か手伝ってくれないかな、と思った時、いつのまにかそっと寄り添ってくれる、そんな方でした。

さまざまな運動にかまけて、同じ教科（日本語[国語]科）であったのに、

文学の話や教科観、変わりゆく日本語[国語]教育の話や、顧問もされていた演劇の話などをじっくりできなかつたことが、今更ながらに悔やまれます。

紙幅が尽きました。語り尽くせないことばかりです。

あるたけの 菊投げ入れよ 棺の中 (夏目漱石)

#### ◆ 橋本朋子

(「教科書・大阪の会」「ピースおおさかを取り戻す会」等)

突然の訃報、本当に驚きました。ええっ？なぜ？と。

昨年11月16日大阪府教組・退職者会の講演会で、「吉村市長学テ問題のビラまきと署名行動をやりましょう！」と提起してくれたのが、松下さんでした。その時「最近ちょっと調子悪く、しんどいわ」とかつぶやいておられました。講演もすべて最後まで聞き、参加されていました。「きょうはありがとう、ご苦労様」と逆にチョコレートまでいただきました。たいへんお優しい方でした。

いつも私は松下さんと、豊中の金太郎飴さんや永井愛さんの劇など、公演の話をよくして、お話を聞くことが多かったです。ほのぼのとした楽しいお話を聞かせてもらいました。

これから参加する集会でも「はしもっさん、今度こんな劇あるよ！」と声をかけられチラシをもらえるような気がしてなりません。

心よりご冥福をお祈りします。松下さん、本当にほんとうにありがとうございました。

#### ◆ 「松下さん ありがとうございます。」

栢田幸子 (「奥野さんを支える叫ぶ石の会」)

松下さんが亡くなられて一週間、どこへも出かける気力がわいてきませんでした。

松下さんが生きていたら、きっとどこかの集会か、デモか、対府教委交渉なんかでお会いしたろうなと思いながら、あまりにも急なお別れに頭が混乱していました。前日の「叫ぶ石の会」総会で、2、3言葉を交わしたきりだったからです。忙しくて話ができなかつたことが悔やまれます。

いつも、エネルギーに活動されていた松下さんには、教科書採択の傍聴の折り、車に乗せていただき、四条畷や寝屋川を往復しました。その記憶力と的確な批判に敬服していました。昨年も道徳教科書採択で、松下さんの幅広い人脈をつなぎ、寝屋川市教委への交渉を行うことができました。・・そして日の丸・君が代裁判の公判にも、教科書集会にも必ず参加されていた松下さん。ある時、嬉しそうに「囲碁の会で同窓会あるから行ってみる」と、おっしゃって、お会いするたびに新発見があり、驚かされました。府教委や市教委交渉の時の厳しい表情と違って、ほんとに優しいお顔でした。それが遺影と重なって、忘れられません。

ある大学病院の廊下で偶然お会いし、お互いに「持病」を持つ身だと知ってからも、生き生きと行動されている松下さんに「どうか無理をされずに」とはどうしても言えませんでした。松下さん、天国ではゆっくりのんびり休んでください。私はもう少しボチボチと松下さんの後ろを追いかけていきます。本当にお世話になり、ありがとうございました。

◆ 「どこにでも松下さんはおられた、いいえまだおられます」  
山田光一（元教員・枚方在住）

松下さんとお知り合いになったのは多分 10 年前くらいからと思います。特に 2011 年あたりから大阪での「評価育成システム」に引き続いての「日の丸・君が代」条例制定の動きの中で、「君が代」不起立処分への取組みの様々な場面でお付き合いを頂きました。「日の丸・君が代」強制反対・大阪ネット等の集会での受付や事務的作業等、特に居住地が同じ枚方市ということで大阪からの帰宅時にはしばしばお車に乗せて頂いてお話をさせて頂きました。

また T ネット事務局での活動や枚方での卒・入学式でのビラ配布、教科書問題や D サポ関係等の取組みでも、可能な時は必ず参加させて頂き頂きました。だから今でも、ラポール 4 階・南部センター・高校門前・自宅前等々では、松下さんが、あの時も、この時も、おられたと思い起こすのです。今後も私たちの背を押し、無言で励まして頂いているような気がします。松下さん、またいつかお会いしましょう。

## ◆「松下駿三さんの思い出」——ダンディズムの闘士

辻谷博子：「教育基本条例下の辻谷処分を撤回させるネットワーク」

松下さんと初めて出会ったのは、1989年4月の東寝屋川高校。お洒落で演劇がお好きな松下さんは、その一方で、組合活動家でもあった。特に「君が代」問題ではいつもその中心におられ、それから約20年後「君が代」不起立処分の時代がやってきた時には、寸暇を惜しんで支援していただいた。

「教育基本条例下の辻谷処分を撤回させるネットワーク」の世話人として今も松下さんがどこかにおられるような気がしてならない。

## ◆「松下駿三さんの思い出」

増田 俊道

「障害」のある生徒が「普通」高校に就学できるようにする運動と、「日の丸」・「君が代」を学校から追い出そうとする運動は、松下駿三さんにとって同一線上だったのだと思います。私にとってもそうです。

どちらの運動においても、松下さんに会えるとホッとしました。元気が出ました。

これからも、どちらの運動もさらにすすめていきます。お疲れ様でした。

## ◆「俳優の松下さん」

山本周（京都市在。昭和42年7月18日生まれ）

松下さんとは一緒に演劇を創った俳優仲間です。

私は2000年4月から仲間と演劇活動を続けています。松下さんには2003年、2004年と続けて、ピューリッツァー賞受賞作家のウィリアム・サローヤンの戯曲『Hello Out There』（邦題『おーい助けてくれ』1941年）に出演いただきました。松下さんは妻を娶られた役で、舞台上、その銃を突きつけられる青年役の私は、その風貌と声のトーンにとっても迫力を感じていました。毎回、本当に殺されるような気がしていたのを思い出します。

2005年には横光利一の戯曲『幸福を計る機械』を舞台化しました。横光は川端康成らと新感覚派の文学運動を展開した人で、稽古中も松下さんを交え、いろいろな文学作品に話が脱線しました。イギリスの劇作家で2005年にノーベル文学賞を受賞したハロルド・ピンターの名が誰かの口から出て、その次の稽古日、なんと松下さんが「参考に」にとピンターの本をご自身の蔵書から持ってきてくれました。後輩の我々のことを本当によく気にかけてくれたと思います。

松下さんと最後に合ったのは昨年11月の京都のライブハウスでした。韓国の農村地帯の音楽を現代に太鼓などで再現する演奏公演を、チケットが余っているよと突然誘ってくれたのです。公演後の夜も更ける中、二人で四条通り寺町を少し北に行った古くからあるお好み焼き屋で遅い食事をしました。

今でもいろんな芝居を観てるよと、その題名や俳優名が古今問わず松下さんの話の中に飛び出します。もしかしたらあの後、お願いをしていたら、もう一度一緒に舞台に立つことを引き受けてくれたかもしれません。



2015年8月2日

## 松下駿三さんが語る言葉

松下さんは、自身が「書いたもの」を残さない、というか「書き残す」ことに執着されない方ようです。しかし必要な時、必要なところには、労を惜しまず書かれていて、そのスタイルは、「発言する」ことにも一貫しているように思います。

“知的障害者を普通高校へ北河内連絡会”のホームページを2014年に立ち上げたのですが、すでに世の中はSNSが席卷し、誰もかれもがフェイスブックやツイッター、インスタグラムばかりに目をやって、ホームページは時代遅れの感がありました。ましてやその隅っこに追いやられている「掲示板」に目をくれる人などほとんどありません。

しかし松下さんは、「掲示板」こそ、実は人と人をつなぎ、社会へと開く窓口であると考えられていたのではないのでしょうか。4年間経っても管理者と松下さんの二人しか書き込みがなく、読まれた形跡もほとんど感じられないそのページに、それでも投稿を続けてくださいました。

松下さんの気遣いであり、思想でもあり、美学を、私は感じています。以下、投稿された文章から。(松森)

### 老老介護の間で

**投稿者：松下 駿三 投稿日：2017年11月3日(金) 22時49分30秒**

事務局員の松下と申します。2016年3月。丁度会としては「風は生きよという」医療的ケアを必要とする仲間の映画を弁天町の会館で上映するための準備で大わらわの最中でした。会館周辺へのチラシ配布も手分けしてしました。大事なイベントを前に北海道で飛行機作りをしていた次兄(76歳)が事故で釧路病院へドクターヘリで運ばれ、医師からは、まあ、生命を取り留めても植物状態だろうと聞かされていました。右脳を強打し意識不明が37日も続き、手術もできないまま(強いて言えば感染症で左眼球摘出)7月安定治癒(高次脳機能障害)ということで退院し、10月まで北海道でサポートしていましたが、何せ寒さもあり、東京在住の長兄(79歳)を頼り上京したが、この長兄が折しも粘液癌で小腸を1、3疝を切除し、人工肛門を着けて12月に退院という事態となり、文字通りの老老介護が始まりました。私は障害者仲間との付き合いをしてきた関係もあって申請書類や役所への掛け合い・ケアマネージャーを含めて看護師やヘルパーとの関わりも比較的スムーズに熟すことができ、そして何よりも楽しい介護体験をしてきました。当事者は若者

と異なり未来(極めて限定的です)に展望を持つことはあまり期待できませんが、たとえ医師に見放されても人間の生命力の強さに改めて驚かされもしました。早くも1年有半。家族としての介護のスタンスも採れるようになり、放り出してしまった北河内連絡会の営みにポチポチ復帰しよう(自らの介護を含めて)と思っています。会の温かさに支えられながらもです。

**投稿者: 松下 駿三 投稿日:2018年7月29日(日) 09時51分53秒**

昨日、北河内連絡会の総会において、会の代表である新 みすずさんが退任の挨拶をされた。実に10数年に及ぶ長い間のご活躍、本当にご苦労様でした。ありがとうございました。自宅に近い府立高校を受験し続け、定員割れし募集定員内にも関わらず、入学を拒否されたこともあり、結果として10年もかかってしまった。10年目を節目として他の高校を受験し、入学が認められたことになる。この間、会としてこの事態をどう受け止めるかという議論があり、結果的に結論を出せないまま事態を静観してしまったという悔いはある。会として関わることができたのは、この10年目の他の高校を受ける時からであった。「新さんの我が儘や」とか「お嬢さんが可哀想」とか、「運動を優先させている」など否定的な意見ばかりで賛同を得ることもないまま、孤軍奮闘され、わずかに村上さんと新家の闘い(十中学校の先生方)として持続してきたことになる。

その結果大阪府下では「定員内不合格は出さない」という不文律ができた。教育庁(教育委員会)が公然と認めているわけではないが、運動の側からも注視し、毎年申し入れ(「定員内不合格を出さないよう」)ている。少なくとも大阪府下では「当たり前」のことが他府県ではまだ認められていない現実がある。曰く「高校は義務教育ではない」・「一定水準の成績が必要」という「適格主義」が定着しきっている結果と言えよう。現状は高校全入に近いのに、決して「全入」になってはならない。いつまでお上の施政を待つお積りなのか、少なくとも当事者や保護者は施政を待ってはいられない。言い出しっぺはいつも少数者の「止むに止まれぬ思い」であったことを思い返そう。松森事務局長のお礼の言葉を聞きながらそんなことを感じていました。新 みすずさん・万智子さんご苦労様でした。これからも一会員として後身のご指導を改めてよろしく申し上げます。

**投稿者: 松下 駿三 投稿日:2018年9月10日(月) 21時40分56秒**

枚方市の人権まちづくり協会が毎年実施している講座「生きること」の第一回目が2018年度9月6日に行われ、新居家が登場した。タイトルは「人工呼吸器があ



ってもみんなと一緒に！～支援者と地域で暮らす～と。

北河内連絡会では家族で事務局に参加していただいているし、優太郎日誌が会のブログでは好評なので身近な方も多いと思われそうですが、私自身、改めて出産時から今日に至るまでの新居家(優太郎さんは言うに及ばず)の真理さんの奮闘振りを、そして男親としては当初見守る以外に手だてがなかったという大作さんのサポート振りが生き生きと語られ、北河内連絡会の一員として関わるだけの私は、初めて真正面からお話を伺い今更ながらに深い感動を覚えました。まさしく「生きること」とはこういうことなのだ、です。そして只今真ただ中なのであり、これからなのです。その生きざまが、きわめて率直で、自然なのです。大作さんが問い掛けました。遠足であれ、修学旅行であれ、一みんなといっしょにバスで行きたい。一に依って割高なりフト付きバスを必要とする時、皆さんはどう考えますか。障害者のために割高なバスを敢えて選択することは。そしてそれを参加するみんなで財政的に支えることは。やれ自己責任だとか受益者負担とか、実施する端から問題になる。問題にすること自体はおおいに意義はあるが、ややもすると往々にして「為にする＝自己責任・受益者負担」が当然、となり、それを行政が追認することが果たしてどうなのか、と大作さんは問うていたのだ。咄嗟に私は、「親にそれを言わせてはいけない！」「親にそのことを言わせている我々市民は一体何者なのだ！」として、行政を含めた我々の哲学の無さをなじっていたが、むしろ大作さんは「親を超えた存在」で敢えて問いかけていたのではないかと今は考え直している。

高校四年生の優太郎さん、進路選択中です。進学にせよ、就職にせよ、これは一過程であり、その先を見据えてどうするかが現在の課題といえましょう。どうか障害者＝作業所という既成のイメージから独立し、障害者ならではの独自の視座と方向性を模索し、実践してもらいたいものです。もちろん、我々に何ができるかも問われている。そして同時に山内 寛さんの進路も見据えていく必要がある。多くの若者が進路を模索し、それなりの道筋を紡ぎ出していく時期に違いないが、卒業⇒社会という既成の路線からも自由な若者が多くいることを忘れてはなるまい。この際、親としても祈ることは良いとしても自立する若者をどうサポートすべきかが大切のように思う。

講座「生きること」の中身が飛んでしまいましたが、来年の6～7月、冊子が完成するころ枚方市の生涯学習センターや図書館で読むことができますのでそちらに期待してください。

〈連絡先〉

知的障害者を普通高校へ北河内連絡会

松森俊尚 TEL 090-1960-3469  matumori@cruz.ocn.ne.jp

「日の丸・君が代」強制反対・大阪ネット

山田光一 TEL 090-5900-0783  yamadak@nike.eonet.ne.jp